

令和 8 年 8 月 12 日

小野市議会議長 様

派遣議員 安達哲郎

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日

令和8年8月1日(土) (オンライン受講)

2 派遣議員

安達哲郎

3 派遣先

オンライン受講

4 内 容

殺処分削減のためには「入口対策」が必要

東京都台東区台東保健所 生活衛生課 課長補佐 高松純子

<内容>

飼い主のいない猫(野良猫)問題

始まり： もともとは飼い主がおり、遺棄したり放し飼いをすることにより野生の世界で繁殖し、増えていった。



糞尿など、環境被害によるトラブル、苦情が発生している現状

(町にいる動物)

スズメ、ハト、カラス、タヌキ等・・・・・・野生動物

犬、猫、うさぎ、ハムスター等・・・・・・愛護動物

「野生動物」

自然界で、自力で餌を取り、種を保持している動物であるので、無闇な餌やりは生態系を壊すため、必要ない。

「愛護動物」

飼い主の有無にかかわらず、人間が愛護し管理していく必要がある。「野良猫」への餌やりは法律では禁止されていない。

愛護動物の遺棄・虐待は犯罪！！

「野良猫問題」

無責任に餌やりを続けると・・・爆発的に繁殖し、増加し続ける



鳴き声や糞害などで人間の生活環境が悪化

・・・では逆に餌やりを禁止すると・・・野良猫はごみをあさったり、人家に侵入して食べ物を盗むようになる



餌やりを禁止しても野良猫は減らない

・・・では保健所で捕獲すれば？

●野良猫は「愛護動物」であり、処分を目的として捕獲することはできない

*犬は「狂犬病予防法」の規制により、野良犬は捕獲・処分が可能

☆猫の繁殖能力

- ・猫は早いと雌が生後4か月で、雄が生後6か月で繁殖できる
- ・1回の出産で5～6頭の子猫が生まれる
- ・1年に3～4回の出産が可能
- ・雄・雌の2頭の猫がいたら、1年後には20頭、2年後には80頭、3年後には2000頭に増える計算



不妊去勢手術をしないと、ネズミ算式に繁殖する

どうすれば？・・・

「地域猫活動」の必要性

*野良猫に不妊去勢手術を施して、「地域猫」としてルールを設け、地域の理解と協力のもとに住民同士で世話をし、一代限りの命を見守る地域活動

「地域猫」の活動理念

- ① 野良猫問題を、動物の命を尊重する。
- ② 猫による環境被害や苦情を防止する。

「地域猫活動」 3 原則

①野良猫の不妊去勢手術

②給餌と清掃

③糞尿対策

- ・・・不妊去勢手術のメリット・・・
- ・猫の数が増えない
- ・発情や喧嘩の大きな鳴き声がなくなり、猫同士の感染症のリスクが減少
- ・尿のにおいが薄くなる
- ・生殖器系の病気の予防
- ・発情・出産のストレスから解放され、穏やかに暮らせる

—東京都台東区での取り組み—

下町文化溢れる台東区では昔から、商店街を中心に、長年ネズミ対策として、猫の放し飼いや餌やりが慣習化していた。下町の気風があり、昔から猫に寛容であった。特に「谷中」地区は猫の町として有名で、観光客による餌やりや、猫の遺棄も横行していた。➡ 飼い主のいない猫（野良猫）が増加

（台東区における「地域猫活動支援」の歩み）

I 以前は、野良猫の苦情はほとんどなく、餌やり禁止看板や忌避剤の配布などで対応していたが、平成16年度から猫の苦情が一気に増大

II 平成17年10月、町会役員からの相談を受けて、町会の女性部や役員会に参加して情報を聴取・提供したことで、地域ぐるみの猫活動が見えてくる

III 11月、区主催「第一回地域猫講習会」を開催

IV ボランティアの相談をもとに、寺社、墓地、民間企業、生活衛生関連同業組合など、なるべく業種別に働きかけて、地域猫活動について合意形成を図り、地域特性に合わせた地域猫支援を展開

V 平成20年9月、それまでのボランティア活動実績をもとに、不妊去勢手術費助成事業をスタート。平成24年度から助成事業を個人から地域団体へ拡大し、取り組みを推進

VI 平成26年度までの10年間の取り組みで、猫の苦情数・引き取り頭数・路上の市対数は激減。平成28年度に地域猫活動の有効性を学会発表

不妊去勢手術費用の助成

→令和2年度～ 雌15000円 雄10000円

→令和6年度～ 雌20000円 雄150000円

対象： 個人（台東区民）、町会、商店街等の地域団体

頭数： 原則個人1人一回5頭まで 1町会あたりは頭数制限なし

条件： ・地域猫講習会の受講

・「地域猫活動3原則」の遵守

・回覧板による地域住民への周知 等

（その他台東区的地域猫活動支援）

- ① 台東区主催「地域猫講習会」の開催。 年7回
- ② 飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用助成
- ③ 「愛猫手帳」の作成
- ④ 「地域猫ボランティア手帳」「ボランティア腕章」の作成
- ⑤ 地域猫普及啓発プレートの作成
- ⑥ 猫の忌避剤の配布
- ⑦ 町会・商店街等の回覧チラシ、ポスターの作成
- ⑧ 猫の遺棄・虐待ポスターの作成
- ⑨ 動物愛護週間中央行事「どうぶつ愛護フェスティバル」開催
- ⑩ たいとうケーブルTV「これ以上不幸な猫を増やさないために！地域猫活動」の放送

まとめ

「地域猫活動」は、長期的に取り組めば、飼い主のいない猫対策に確実に効果があることが立証された。「地域猫活動」を長期継続するには、活動を支える「地域猫ボランティア」を行政が経済的・精神的に支援することが重要である。

5 所 感

オンラインで「地域猫活動」について勉強させていただきました。台東区は先進的に取り組みをされていて、行政がしっかりと経済的にもサポートすることで、結果的に、平成17年に410件あった猫の苦情が、令和6年には6件になり、路上の猫の死体数も、平成17年には536頭もいたのが、令和6年には39頭にまで減少しています。また、愛護センターへの猫の引き取り数も平成17年には90頭いたのが、令和6年には2頭まで減っています。こういった献身的な取り組みは、人間にとっても、猫にとってもすごく素晴らしいことだと感じました。保護猫活動をやっていく上で一番大変なのが費用面です。不妊去勢手術はもちろんのこと、日々の餌代やトイレ環境の整備に多額の費用がかかります。せめて不妊去勢手術だけでも行政が補助できると、とても助かるという話も聞いていますし、小野市でも積極的に、地域猫活動に取り組むべきだと強く思いました。